

■藤原通憲(信西) 官人。法体で鳥羽院近臣トップとなり、院死後、〈保元の乱〉で勝利するも〈平治の乱〉で敗れ自殺。

ふじわらのみちのり

・・・・・・・・1106＝ 生。父は一口の蔵人(六位蔵人の筆頭)実兼。母は信濃守源有房の女。

白河院政確立1107＝ 1歳：

・・・・・・・・1112＝ 6歳：父が才智を惜しまれながら28の若さで急死したためか、高階経敏の養子となり、

・・・・・・・・1115＝ 9歳：

中尊寺金色堂1124＝18歳：

さらに高階重仲の女をめとり、高階氏を称して朝廷に出仕した。

・・・・・・・・1127＝21歳：六位蔵人から_従五位下に進み、

鳥羽院政始・1129＝23歳：ついで_院判官代に補されて鳥羽上皇に近仕し、

忠盛宋船横領1133＝27歳：

・・・・・・・・1135＝29歳：この頃、紀伊守藤原兼永の女朝子をめとる。妻はのち後白河天皇の乳母として有名な紀二位となる。

・・・・・・・・1142＝36歳： また日向守に任ぜられたが、

為義頼長臣従1143＝37歳： _官途に見切りをつけ出家の許可を奏請。その才幹を惜しんだ上皇はこれを許さず、少納言に拔擢したが、

・・・・・・・・1144＝38歳： *藤原の本姓に復した後、出家した。法号は初め円空と称したが、まもなく信西と改めた。法体となった信西は、同じく法体の上皇に一段と親近し、院近臣グループのリーダー格にのしあがって行く。

頼長内覧・ 1151＝45歳：

_紀二位の縁により、

頼長内覧停止1155＝49歳： *後白河天皇の践祚後さらに勢威を伸ばす。

保元の乱・ 1156＝50歳： *保元の乱前後の活躍は目覚ましく、天皇方の謀主となって勝利をおさめ、死刑を復活し、摂関家の分裂に乗じてこれを抑圧し、天皇親政をうたって新制(保元新制)を發布し、記録所を設け、平安内裏を復興。

後白河院政始1158＝52歳： _しかし天皇が二条天皇に譲位して上皇になると、天皇・上皇の近臣間の権力争いが激化し、信西もそれに巻き込まれた。また保元の乱で父や弟を斬刑に処された源義朝は、その後もおのれをうとんじ、平清盛に親近する信西に憤りをいだいた。

平治の乱・ 1159＝53歳： *かくて政敵藤原信頼と義朝が兵を挙げるや<平治の乱>、信西は奈良に逃げのびようとしたが、途中追跡の兵に発見されて自殺した。